

2022年11月30日

スペシャルオリンピックス日本・埼玉 男澤理事長様
同上 犬竹事務局長様

スペシャルオリンピックス日本・埼玉 SP 委員長
フロアホッケー主任コーチ 田口 正彦

フロアホッケープログラムを発展的解消して、フロアボールプログラムへ移行の件

拝啓

日頃より大変お世話になります。

さて掲題の件ですが、スペシャルオリンピックス日本・埼玉（SON 埼玉）では2006年より富士ゼロックス岩槻事業所の体育館でフロアホッケープログラムの導入を始めました。

それから16年の長きに渡り続けてきたフロアホッケープログラムですが下記理由にて発展的解消として、今後は同メンバーでフロアボールプログラムに移行したく進めておりますので、ご承認いただきます様何卒宜しくお願いいたします。

敬具

フロアホッケープログラム解消理由

- ① 16年間プログラム開催を行ってきておりますが、フロアホッケーの普及にも限界を感じてきております。
- ② スティックやパックなどの購入が現時点では出来ない状況であるので、このまま続けても将来が無い。
- ③ 前回の世界大会でもフロアホッケーは開催されず、フロアボールが採用されている現状を鑑みてもこれ以上の発展は見込めない。
- ④ フロアホッケーの最小チーム構成は11名であるが、現在のプログラム参加者は11名を下回っております。

フロアボールプログラム導入理由

- ① フロアボールは日本フロアボール連盟の上部組織から埼玉県フロアボール連盟までの組織が出来ている。
- ② 学校授業などでフロアボールが採用されていることも聞いているので、普及も容易に可能である。
- ③ フロアボールの防具（ヘルメットや脛当て）は特に必要ないので、導入が容易である。
- ④ 今回大宮シティロータリークラブ様から道具を一式寄付いただいたので、SON 埼玉としてもプログラムの導入が容易にできる。
- ⑤ SOI も SON もフロアボール連盟との連携に力を入れているので今後の発展が期待できる。
- ⑥ 世界大会ではフロアボールが採用されているので、アスリートがより上の大会に参加できる機会が出る。

フロアホッケー過去の戦績

- ・SON2008年冬季山形大会 ディビジョン4 4位
- ・SON2012年冬季福島大会 ディビジョン3 4位
- ・SON2016年冬季新潟大会 ディビジョン2 3位



新潟大会でのプロスケーター安藤美姫さんとの交流



新潟大会での3位の表彰風景



新潟大会での試合風景